

2021年度

地球環境『自然学』講座

第4回

テーマ

臨床心理士の世界とその今日的役割

講師

京都大学名誉教授

藤原 勝紀 先生

2021年12月18日

認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

藤原勝紀 (ふじわら かつのり)



1. 経歴

徳島県（1944年）生れ、九州大学理学部入学、教育学部教育心理学科（カウンセリング学）卒業、同大学院修士・博士課程終了、九州大学教養部講師・助教授・教授を経て平成8（1996）年京都大学教育学研究科教授（教育学部長・研究科長、平成20年退職）、放送大学京都学習センター所長（平成27年退職）。京都大学名誉教授、博士（教育心理学 九州大学）、臨床心理士

2. 現職

（公益）日本臨床心理士資格認定協会専務理事、（一社）日本心理臨床学会理事長
京都市教育相談総合センター常任顧問、京都市児童生徒登校支援連携会議顧問
（公益）世界人権研究センター理事、大阪樟蔭大学客員教授など

3. 著書

『三角形イメージ体験法に関する臨床心理学的』（九州大学出版会）
三角形イメージ体験法 -イメージを大切にする心理臨床-（誠信書房）
からだ体験モードで学ぶカウンセリング（カコシヤ出版）
学生相談と心理臨床（河合隼雄・藤原勝紀共編 金子書房）など共編著多数
DVD：心理臨床を学ぶ（Vol.4）心理療法・カウンセリング 医学映像教育センター

テーマ 臨床心理士の世界とその今日的役割

講師 京都大学名誉教授 藤原勝紀

臨床心理士の世界を歩みながら見えてきたこと—かけがえのない《人・心・命》—

(1) 心理療法・カウンセリングとは：一般の助言・相談・カウンセリングと違う？

心理療法 (psychotherapy)、カウンセリング (counseling)、セラピー、カウンセラー、クライアント、セラピスト、スーパーヴァイザー

(2) ともにある面接関係の難しさ (信頼関係を創り、その度合いを持続的に展開)

→注意深い養成と錬磨を要する専門性

- ① 経験していなければ、人間は相互に理解し合うことができないか？
(わかりあう、わかちあう、ともに寄り添って生きる・万人満遍に人生皆初体験)
- ② カウンセラーは、クライアントの前では、いつも初心者であるはず
- ③ 問題や症状は、つねに生き難さを気づかせる意味のあるシグナル
- ④ 悩み訴え (症状や問題) は大切な手土産で、人間関係の信頼関係への道しるべ
- ⑤ ヒト科 (フィンガ、ガラ、ワンダー) で人間だけが「イメージ力」を活かす醍醐味は

(3) 二面 (対立する葛藤・二律背反) をやりとり (関係性) して生きる力と私の創新

→関わりの専門性は、態度・姿勢・眼差

- ① 面接契約、小さな約束、「粹」といった時・場・相手・料金と守秘などの備え
- ② ラポール (関係づくり) : 自由に感情表現をできる温かな人間関係の雰囲気
- ③ 関与しながらの観察 (サリバン) : 知性と感性を駆使した相手への関心と傾注
- ④ 悩みの内容よりは悩み訴えている相手、辛さ悲しさ生きる眼前の人間の力に注視
- ⑤ おっとどっこいと自身の底力から迫り上げて生きるレジリエンス力への信頼 !!!

(4) 人が人と関わり合う (関係性・寄り添う) 影響力 (人間環境力) の悲喜こもごも

→たえず心の相互評価を生きる面接関係

専門的方法としての臨床心理面接法 (一般面接法との違い) : クライアント中心
人の心 (生)・命 (死) の不可知さ、孤独 (ぼっち) で生きられるのか : 不安・恐怖
臨床心理面接法は、直に影響しあう治療や援助の方法であり人間探求の方法である。

Ex. 個別・主観性、瞬時・一回性、直接・生身性、独自・多様性、不可知・不如意性

(5) 生涯学習テーマとして生きる<私> : 新型コロナ禍の心理臨床思つきアラカルト

資料（用語について）

1 地球環境問題としての「人間環境」：コロナ危機から学ぶ《人と心と命》について

①狩猟社会→②農耕社会→③産業社会→④情報社会→⑤第五の『Society 5.0』社会
☆「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」（内閣府 2016）

☞パンデミック、ソーシャル・ディスタンス、オンライン、ランサムウェア（Ransomware 身代金要求ウイルス）

2 《人と心と命》に寄り添う「こころの専門家」・臨床心理士の世界（用語の概説）

◎**臨床心理士**（Clinical psychologist）：公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する心の専門家ライセンス（免許）であり、ディプロマ（専門資格認証書）。1988年から認定を開始し現在総認定者は39,000名程である。養成大学院指定認証評価（修士、全約160大学・3年毎実地視察、6年毎の継続審査）、資格試験（筆記・論文・面接）、5年毎資格更新制度をもつ高度専門資格。厳密な専門義務（倫理綱領の遵守、知識、研修、交流等）も負う心の専門家であり、心理臨床の専門業務（臨床心理査定・臨床心理面接・臨床心理地域援助・それら研究調査）を行う。

◎（公益）**日本臨床心理士資格認定協会**（Foundation of the Japanese Certification Board for Clinical Psychology:FLCBCP）は、昭和63（1988）年に創設され、同年から臨床心理士資格認定を開始（第1号成瀬悟策、第2号河合隼雄）。日本心理臨床学会を主たる学術基盤とし、日本臨床心理士会とも連携をはかりながら、臨床心理士の養成（指定大学院制）、試験（資格審査制）、研修（資格更新制）の制度を整備し、わが国初の心の専門家の社会的制度化（臨床心理士制度）を確立した内閣府認可公益財団。「心の健康会議」（年度で30回）、「心の健康・文化フォーラム」、学校（私学）臨床心理士（スクールカウンセラー）全国研修会、子育て支援講座、自然災害被災者支援も展開する。『臨床心理士報』（登録者名簿公告も行う公報誌）で公式公告し、『新・臨床心理士になるために』（誠信館）、『臨床心理士資格試験問題集1-5』（誠信館）により一般広報している。

◎**心理臨床**：臨床心理の専門家が専門業務や活動領域一般を自称したり、臨床心理学の応用的な実践活動をさす通称語だったようですが、昭和57（1982）年に日本心理臨床学会発足で、臨床心理実践と臨床心理学を統合した（実践も研究教育もできる心の専門家）・心理臨床家という専門用語が定式化した。急激な発展流布の昨今、心理臨床やカウンセリングが、広範曖昧日常化し、その実害・危険性防止のために出来た専門性が、皮肉にも再吟味が必要な時代。「臨床」とは「死の床に臨む」という生きてある人間に寄り添う意味です。